

シティガイドと歩く・大谷トロッコ軌道跡を歩くコース MAP

スタート (市営大谷駐車場)

ゴール (市営大谷駐車場)

●大久保石材店



大谷石の中をくりぬいて、和風の座敷に、それから会社の事務所として、現在は物置

●屏風岩



大谷石王と呼ばれる大正期衆議院議員を務めていた渡辺陳平氏的设计による和風・洋風の建物、栃木県指定文化財・西側が明治41年、東側が45年

●渡邊家住宅



宇都宮認定建造物に渡邊家の母屋・西石蔵・表門が指定されている。未認定の建物に、東蔵・納屋・天満宮などがある。渡邊家は江戸時代に名主をつとめた旧家。西石蔵は1769年以前の石造建築、茅葺き屋根の母屋や大谷石屋根の薬医門には1868年の世直し一揆のさいの刀傷か

①旧荒針駅跡



宇都宮軌道運輸会社によって、明治30年(1897)大谷石の輸送を目的として、西原町(新川バス停付近)~荒針(城山地区市民センター付近)間に初めての人車鉄道が敷かれた。翌年軌道は、荒針から立岩・弁天山・風返へと拡張。また、昭和36年(1903)には、荒針~材木町(裁判所付近)まで延びた。昭和39年(1964)荒針駅はその役目を終えている。

●大谷公園



大谷石を積んで東武大谷線を走っていた「5号蒸気機関車」は、今は東武宇都宮線「おもちゃのまち駅」東口に展示されている。宇都宮石材軌道(株)から東武鉄道を経て鹿島参宮鉄道へとつづり、昭和45年(1970)まで現役で走り続けた。

②のこぎり屋根の倉庫



現在は瓦作児童公園になっている。その横に軌道跡が残る。瓦作駅から北へ向かって立岩駅に至る軌道跡が続いている。又北西に向かって弁天山に至る軌道線が延びていたようだが、その跡をたどることはできない。

③旧瓦作駅跡



現在は大谷公園になっている。その横に軌道跡が残る。瓦作駅から北へ向かって立岩駅に至る軌道跡が続いている。又北西に向かって弁天山に至る軌道線が延びていたようだが、その跡をたどることはできない。

現在は大谷公園になっている。その横に軌道跡が残る。瓦作駅から北へ向かって立岩駅に至る軌道跡が続いている。又北西に向かって弁天山に至る軌道線が延びていたようだが、その跡をたどることはできない。

●大谷公園



現在は大谷公園になっている。その横に軌道跡が残る。瓦作駅から北へ向かって立岩駅に至る軌道跡が続いている。又北西に向かって弁天山に至る軌道線が延びていたようだが、その跡をたどることはできない。

大谷トロッコ軌道跡を歩くコース



⑦旧大谷寺前
人車鉄道駅跡



大谷石材軌道之碑



宇都宮軌道運輸会社によって、明治31年(1898)荒針~大谷さらに風返へと延びる人車軌道が敷かれた。東武鉄道に合併後、人車軌道は東武大谷軌道線となったが、昭和27年(1952)に廃止された。近くの大谷寺には「大谷石材軌道之碑」(大正8年12月建碑)がある。石材軌道の敷設によって大谷石の生産がふえ、当時の城山村はおおいに潤ったようだ。

⑥大谷夏いちご



大谷石採取場跡地に貯留している冷水(冷熱エネルギー)を活用して「大谷夏いちご」の栽培が行われている。収穫のピークは6月~9月。品種は「なつおとめ」。2017年4月に「大谷夏いちご」の商標登録がされた。クラン冷却という、冷水が循環しているパイプを苗のクラン(株元)にはわせ、いちごの生育をコントロールしている。

●立岩延命地蔵



江戸時代中期、疫病の為に多くの嬰兒の尊い命が失われた。その時、立岩村を中心とした村々の有志65人が願主となり、享保12年(1727)に延命地蔵尊、十九夜観音、千手観音が祀られた。祠堂は昭和50年(1975)に地域の方の喜捨によって再建された。

⑤立岩駅跡



宇都宮軌道運輸会社によって、明治31年(1898)荒針~立岩まで人車軌道(軌間610mm)が敷かれた。32年後の昭和4年(1929)宇都宮石材軌道(株)によって、荒針~立岩までの軽便鉄道(軌間1067mm)が開通。その後東武鉄道に吸収合併され東武大谷軽便線となったが、残念ながら昭和39年(1964)に大谷軽便鉄道は全線廃止された。現在

④立岩神社



石を運んだ軽便鉄道の廃線跡に面する神社。主たるご祭神は、岩祈神・根祈神(いわさくのかみ・ねさくのかみ)。昔は星の宮と称していたが、大正元年(1912)に立岩神社と改められた。大谷石造りの鳥居も珍しい。星宮と刻まれた石も残されている。